



その他

6-1 学会等の参加

(1) 第60回日本人間ドック学会学術大会

年 月 日	演 題 題 目
令和元年 7月25日 26日	人間ドック受診者における血清シスタチンC検査の意義 (第2報)

発表者：牧野誠司、仲畑輝香、柘植和子、井上未樹、平内ともみ、越村真奈美、
勝田香織、安田宜成、平山幹生、伊藤和幸

【目的】

血清クレアチニン（sCr）は広く腎機能検査に用いられるが筋肉量の影響を受ける。血清シスタチンC（sCys）は筋肉量に影響されない腎機能指標として注目されている。6年前に有用性について報告した。春日井市総合保健医療センター開業に伴い、全人間ドック受診者でsCysを測定し、その有用性を検討する。

【方法】

対象は平成29年度人間ドック受診者9625名。性・年代別にsCr、sCys、推算糸球体濾過（eGFRcreat、eGFRcys mL/分/1.73m²）を比較検討した。筋肉量の影響を評価する目的でeGFRcreatとeGFRcysの3分位間で問診票の運動習慣を含め比較した。

【結果】

sCr、sCysは男女共に年代が高くなるほど高値となり、sCrは男性は70歳代以上、女性は50歳代以上、sCysは男女とも50歳代以上で有意に高かった。男女別でeGFRcreatは67.79±14.76、72.72±14.69、eGFRcysは81.94±20.47、91.28±21.33でeGFRcysが有意に高値だった。eGFRcreat、eGFRcys毎のGFR区分はG1：8.8%、40.4%、G2：

68.1%、50.8%、G3a:20.0%、6.9%、G3b：2.6%、1.5%、G4+5：0.4%、0.4%であり、eGFRcysは有意にGFR区分上位者の割合が多かった。eGFRcys-eGFRcreatの3分位順で、男女とも年齢、体脂肪率、腹囲が低く、体脂肪率は高くなり、体重と尿酸は男性では高く、女性では低くなった。多変量解析で、男性ではUN、女性では30分以上の運動、男女共通では年齢、BMI、腹囲、体脂肪率、尿酸、20歳からの体重変化、歩行速度に有意差を認めた。

【考察】

eGFRcysはeGFRcreatより高く、両者の差には年齢、体格や運動習慣が関連し、筋肉量の影響が推測された。本研究の限界は筋肉量を直接評価してない。GFRを実測していないためeGFRcysとeGFRcreatのどちらが正確かは解析できない。

【結語】

人間ドック受診者はeGFRcysはeGFRcreatより高く、GFR60未満は有意に少ない。筋肉量の影響を受けないsCysは人間ドック受診者の腎機能評価には有用である可能性が示唆された。

6-2 会議活動

【健診担当者会議】

ア 目的・内容：健診事業・健康づくり事業にかかる各ミーティング（臨床検査技師ミーティング、診療放射線技師ミーティング、看護師ミーティング、健康づくり担当者ミーティング）を統括し、健診事業の円滑な実施に資する。

イ 開催：原則第1水曜日 午後4時～

ウ 構成：8名

【医療安全担当者会議】

ア 目的・内容：医療の質の向上と安全管理及び院内感染対策を総合的に企画・実施する。

イ 開催：原則第2水曜日 午後4時～

ウ 構成：7名

【サービス向上担当者会議】

ア 目的・内容：施設利用者に対するサービスの改善と質の向上の推進を図る。

イ 開催：原則隔週金曜日 午後4時～

ウ 構成：7名

【事務会議】

ア 目的・内容：事務管理・施設運営に係る事項を協議し、効率的な法人運営及び事務執行に資する。

イ 開催：原則第3水曜日 午後4時～

ウ 構成：4名

【年報編集委員会】

ア 目的・内容：事業団の年報の編集・作成を行う。

イ 開催：年間2回、その他担当ごと編集作業を実施

ウ 構成：7名

【機関誌編集委員会】

ア 目的・内容：年2回発行する事業団の機関紙の編集・作成を行う。

令和元年度は「vol.8 もっと知ろう！大腸がん」、「vol.9 血圧コントロールを始めましょう！」を作成。

イ 開催：随時

ウ 構成：5名



6-3 新型コロナウイルス感染症の影響

(1) 休日・平日夜間急病診療への影響

【患者数】

(人)

月	平成30年度					令和元年度				
	患者数計	内科	小児科	外科	歯科	患者数計	内科	小児科	外科	歯科
1月	3,924	2,510	1,262	110	42	2,456	1,441	821	153	41
2月	1,237	646	516	63	12	985	493	408	73	11
3月	692	321	298	68	5	337	174	102	56	5
計	5,853	3,477	2,076	241	59	3,778	2,108	1,331	282	57
前年比 (%)	101.5	104.2	100.9	78.5	86.8	64.5	60.6	64.1	117.0	96.6

【インフルエンザ検査の状況】

(人)

月	平成30年度					令和元年度				
	検査数	陽性者計	A型陽性	B型陽性	A型B型	検査数	陽性者計	A型陽性	B型陽性	A型B型
1月	3,365	2,206	2,200	6	0	1,756	905	883	22	0
2月	884	370	355	15	0	656	203	85	117	1
3月	277	67	59	8	0	84	16	1	15	0
計	4,526	2,643	2,614	29	0	2,496	1,124	969	154	1
前年比 (%)	103.5	127.5	278.4	2.6	—	55.1	42.5	37.1	531.0	—

休日・平日夜間急病診療は、前年に比べインフルエンザの流行が緩やかであったことから1月以降の患者数は前年に比べ減少傾向であったが、3月の患者数が前年の半数を下回ったのは、新型コロナウイルスの感染拡大に起因するものと思われる。3月13日から医療従事者への感染リスクを考慮し、診療所での口腔粘膜検査を原則禁止としたことも影響し、1月から3月までのインフルエンザ検査件数は前年比55.1%となった。

また、医療従事者への感染防止対策として、1月に診療所内に発熱患者の隔離エリアの設置、3月にN95マスク、ゴーグルの防護具を配備した。

(2) 健診事業へ影響

【受診者数】

月	平成30年度							
	人間 ドック	脳 ドック	基本 健診	特定 健診	生活習 慣病予 防健診	ヤング 健診	乳がん 検査	子宮がん 検査
1月	734	62	286	—	1	51	217	173
2月	778	62	299	—	0	44	245	183
3月	816	56	317	—	0	35	202	171
計	2,328	180	902	—	1	130	664	527

月	令和元年度							
	人間 ドック	脳 ドック	基本 健診	特定 健診	生活習 慣病予 防健診	ヤング 健診	乳がん 検査	子宮がん 検査
1月	721	53	284	—	0	32	224	182
2月	707	56	264	—	2	51	190	150
3月	544	46	321	—	0	29	188	165
計	1,972	155	869	—	2	112	602	497
前年比 (%)	84.7	86.1	96.3	—	200.0	86.2	90.7	94.3

【令和2年3月 健診予約変更・キャンセル件数】

2日	3日	4日	5日	6日	9日	10日	11日	12日	13日	16日
43	25	34	12	10	17	7	16	8	7	7
17日	18日	19日	23日	24日	25日	26日	27日	30日	31日	
15	6	6	16	9	12	28	13	51	15	

健診事業は、令和元年度は休止することなく実施したが、3月は新型コロナウイルス感染拡大への懸念から、取消や日程変更の連絡や問い合わせが多く入った。

健診事業を継続するにあたっての感染防止策として、健診スタッフにはマスク、手洗いの徹底、始業前の体温計測、各検査室への消毒薬の配置を行い、受診者には受付カウンターでの消毒、健診フロアの換気、雑誌の撤去、空気清浄機の設置を行い感染の防止に努めた。

(3) 健康づくり事業への影響

【総合保健医療センター】

月	平成30年度					令和元年度				
	受講者数	指定管理事業	委託事業	自主事業	講師派遣	受講者数	指定管理事業	委託事業	自主事業	講師派遣
1月	1,077	61	162	844	10	1,336	50	252	1,023	11
2月	1,166	0	206	930	30	1,039	0	188	819	32
3月	1,202	0	235	960	7	0	0	0	0	0
計	3,445	61	603	2,734	47	2,375	50	440	1,842	43

【保健センター】

月	平成30年度					令和元年度				
	受講者数	体力測定	個別指導	事後支援講習会	健康づくり事業	受講者数	体力測定	個別指導	事後支援講習会	健康づくり事業
1月	3,020	68	13	2,067	872	3,367	64	9	2,271	1,023
2月	3,383	75	24	2,209	1,075	2,836	63	15	2,004	754
3月	3,643	72	21	2,411	1,139	0	0	0	0	0
計	10,046	215	58	6,687	3,086	6,203	127	24	4,275	1,777

【感染症拡大の影響で中止となった事業（総合保健医療センター）】

実施予定日	講座名		見込み参加人数
2月28日から年度内中止	一般講座	お気軽運動教室	360
3月3日から年度内中止	一般講座	簡単体操教室	885
3月5日から年度内中止	一般講座	からだはつらつウォーク教室	108
3月6日	委託事業	女性のためのヘルスアップ講座	10
3月10日	自主事業	女性のセルフチェック教室	11
3月11日から年度内中止	自主事業	お腹の中の教室	90
合計			1,464

【感染症拡大の影響で中止となった事業（保健センター）】

実施予定日	講座名	見込み参加人数
2月26日から年度内中止	体力測定、個別指導、事後支援講習会ほかすべての健康づくり事業	—
合計		—

健康づくり事業は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、総合保健医療センターでは2月28日以降実施予定の全ての教室を、保健センターでは2月26日以降実施予定の体力測定、個別指導、事後支援講習会ほか全ての健康づくり事業を中止とした。

また、1月以降開催した講座では会場の換気を行い、対応する職員のマスク着用を徹底し、事業中止の決定後は利用者への周知を徹底し混乱を回避するよう努めた。

(4) 貸館事業へ影響

月	平成30年度					
	体育室兼 運動訓練室		大会議室 和室 料理教室		計	
	回	人数	回	人数	回	人数
1月	184	3,401	17	279	201	3,680
2月	183	3,481	19	276	202	3,757
3月	202	3,773	15	294	217	4,067
計	569	10,655	51	849	620	11,504

月	令和元年度					
	体育室兼 運動訓練室		大会議室 和室 料理教室		計	
	回	人数	回	人数	回	人数
1月	181	3,447	12	176	193	3,623
2月	171	3,215	15	194	186	3,409
3月	51	279	1	2	52	281
計	403	6,941	28	372	431	7,313
前年比 (%)	70.8	65.1	54.9	43.8	69.5	63.6

保健センターの貸館事業は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、3月22日から全面休館とした。また、3月21日以前についても利用者、利用団体に対して多数で密になる利用を避けるよう呼びかけを行い、キャンセルする利用者、利用団体に対しては料金の返還を行った。その結果、1月から3月までの利用者数は前年比63.6%となり、3月単月の利用者数は前年比6.9%となった。

感染防止対策として、施設入口にアルコール消毒液を設置し利用者に対して入館前の手指消毒を促した。

年報作成委員会

牧野 誠司
小川 律子
成田 晃久
井上 未樹
金井 沙耶香
中村 なつ恵

令和元年度版 公益財団法人春日井市健康管理事業団年報

令和2年11月発行

編集・発行 公益財団法人春日井市健康管理事業団
〒486-0804
春日井市鷹来町1丁目1番地1
TEL 0568-84-3060
FAX 0568-84-3682